

離れて働く相手の判断を、どう支えるか

No.002 2020年11月5日発表 / 2026年10月23日改訂

日常の仕事で、何を確かめ、どこを変えるかを整理する提案です。

確認を進めるための整理（当社提案）

01 上司の想像

経験があるから、できるはず

02 本人への確認

情報・時間・権限の何が足りないか

03 支援の選択

問い・説明・実演を使い分ける

相手を想像したら、本人の話と仕事の実物で確かめる。

利用する場面・本人の条件・必要な支援に合わせて確かめます。

同じ場면을、何から確かめるか

No.002 2020年11月5日発表 / 2026年10月23日改訂

使い方を示す架空の例

オンラインで、提案書の作成が止まる

見直す前の条件

上司は意欲の問題と考えている

次に確かめること

顧客への確認事項と、その確認方法を決める

途中の提案書を一緒に見て、「どこまで分かり、何が未確認か」を聞きます。顧客への確認事項を本人と決め、必要なら確認の仕方を実演します。次の面談では報告した回数だけでなく、条件を確認できたか、提案の判断に使えたかを見ます。

次の一件で使う、四つの確認

No.002 2020年11月5日発表 / 2026年10月23日改訂

1 本人が見ている資料と、未確認の条件を聞いたか

確認済み / 要確認 / 相談する

2 想像した相手像を、本人の説明で見直したか

確認済み / 要確認 / 相談する

3 問いかけと、説明・実演の必要性を分けたか

確認済み / 要確認 / 相談する

4 次に試すこと・支援・確認時点を合意したか

確認済み / 要確認 / 相談する

説明できる範囲と、確認が必要なこと

No.002 2020年11月5日発表 / 2026年10月23日改訂

相手を想像するだけで正しく理解できるとも限りません。本人から新しい情報を得ることを重視し、対話後に実際の仕事が進んだかを確認めます。本稿の関わり方は当社の実践提案であり、成果を保証する方法ではありません。

最低限の成果を要求する選択を設けた実験ゲームで、統制を受けたときに成果を下げる参加者が多くいました。職場の監視全般や日本のリモート勤務を直接調べた研究ではありません。必要な安全確認や進捗共有まで不要になるとは言えません。

参照した一次資料

Falk & Kosfeld (2006) The Hidden Costs of Control

<https://www.aeaweb.org/articles?id=10.1257/aer.96.5.1611>

今回改めたことと、資料の使い方

No.002 2020年11月5日発表 / 2026年10月23日改訂

監視や動機づけに関する一律の断定を改め、研究の対象・限界と当社の実践提案を分けました。旧資料・画像も改訂版へ差し替えました。

発表当時の記録を保持し、改訂内容と日付を示します。本資料の例や確認項目は、個別の条件に合わせて使うための提案です。

現在の公開資料と使い方の案内

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/0000000343.000068315.html>

お問い合わせ：リクエスト株式会社

request@requestgroup.jp

<https://requestgroup.jp/request>